

第8回日展

第2科（洋画） 特選授賞理由

題名

こもれび

作者名

内海洋江

授賞理由

日常の何気ない風景を愛情深く見つめ、それを表現し作品とした。力強い木の根とかわいい黒猫の対比、木漏れ日をモノクロ調の美しい色彩で画面を作り上げ、見る人を静かに感動させる優れた作品である。

微睡む

大木基彰

授賞理由

数少ないモデルを目の前にして描くスタイルの作家であり、その絵に向かう誠実な姿勢と同じモデルを長年描き続けた成果がオーソドックススタイルな作風の中にも個としての重さを生み、凜とした力強い作品にしている。

せりな嬢の肖像

大山富夫

授賞理由

東京芸術大学とウィーン美術アカデミーで培った、しっかりとしたデッサン力と材料技術の知識を駆使した作品である。特に本作品は、それに優しく品格ある色調が加わった逸品である。

動魂

春日裕次

授賞理由

作者は、バイクや人物の量感や細部の説明を極力省き、絵画の平面性に重きを置いて表現している。本作では特に効果的な色面の配置によって、空間感や画面の動きを獲得している点が高く評価された。

the day

久保尚子

授賞理由

矩形のキャンバスにグリッドを用いることで時間の概念を取り込む。モチーフが暗示する「静と動」「無窮と儂さ」などが縦横に横溢する世界は、現代の生を見事に表現している。

題名

横浜夕景 31・花火

作者名

小林理恵

授賞理由

きらびやかな都会の夜景を、木版画の技法を駆使し、現代的な視点で切れ味鋭く表現している。大胆な構図の中に、限られた数の色相を巧みに配して視覚効果に強いインパクトを与え、テーマ性が明快な優作である。

息吹き

齋藤 均

授賞理由

日光戦場ヶ原の自然の生命感をテーマに取り組んでいる。森の中に光が差し込み、草木が輝き、野鳥のさえずりや風の音、一瞬の美しさに生命感を感ず。オオルリ鳥が今少し強くてもよかったが、緊張感のある観察のゆきとどいた秀作である。

静謐・牧者の杖

永山秀男

授賞理由

作者が長年に渡り取材をし、追求してきたモチーフである。その取材に基づいた適格な描写、構成、マチュール、堅牢な画面等、努力が実り、秀作として今後も期待したい。

牛骨と卓上

二宮弘一

授賞理由

すべてを削ぎ落した牛骨の美は画家のモチーフの一つである。作者は画室の牛骨を通して死の内面と言うべき表現を、白黒の底音の色彩で描いている。現代は明るく軽やかなものが好まれるが、暗く沈んだ悲しみの空間表現はかえって魅力的である。

音彩

早崎和代

授賞理由

優しく清楚な色調が魅力である。窓の外の和らかい緑の調子と、シンメトリーに配した西洋風な室内との対比が良く、バイオリンが凜としている。静かな音色が感じられ優作である。